

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	東京都	市町村名	北区	大学名	
派遣日	令和3年8月23日(月曜日) 13:30~16:15 13時30分 北区の日本語指導についての指導・相談 15時 休憩 15時10分 日本語指導のカリキュラムについての指導・相談				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	北区役所滝野川分庁舎 1階 大会議室				
アドバイザー氏名	齋藤 ひろみ				
相談者	北区教育委員会 指導主事 小林 大輔 北区日本語適応指導教室設置校 教員(6人) 北区日本語指導加配教員配置校 教員(3人)				
相談内容	1 2年間の日本語指導のカリキュラム作成について (1) 児童・生徒に2年間で身に付けさせるべき内容について (2) DLAの活用について (3) 「外国にルーツをもつ子どもたちの学習目標例」の活用方法について 2 カリキュラムの様式について (1) 他の都道府県のカリキュラムについて (2) 2年間の指導計画の立て方、指導期間について				
派遣者からの指導助言内容	<ul style="list-style-type: none">・DLAテスト(ステージ1~6までである)のステージ5以上が、退室の目安となる。2年間で、ステージ5以上の到達を目標としたカリキュラムを作成する。・子どもたちの多様性に応じた日本語教育を行うには、子どもの実態を把握した上で、どの時期にどんな内容を実施し、何を身に付けさせるのか(目標)をまずは検討することが重要。その上で、各種の教材や教科書の特徴を把握した上で、指導時期・内容に応じて、どれを活用して指導するのがよいか、あるいは教材をどう開発するかを検討する。目標については、日本語のみならず、異文化適応や母語・母文化とアイデンティティ、社会参加といった視点ももって、DLAの参照枠や「外国にルーツをもつ子どもたちの学習目標例」を参考に策定する。・発達段階を踏まえ、小学校と中学校に分けてカリキュラムを検討する。・カリキュラムについては、入門期、初期、中期、後期の4段階に分け、3ヶ月ごとに学習内容を配置して編成する。内容は、サバイバル日本語、日本語基礎、技能別日本語、日本語と教科の統合学習、その他(多文化共生、母語・母文化、キャリア教育等)のプログラムで構成する。				

(様式3)

相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none">・ 2年間で児童・生徒が身に付けるべき内容について資料を基に理解することができた。今後、カリキュラムの作成をグループに分かれて実施する。・ 教員が資料を基に考えを伝え合うことで、北区における日本語適応指導教室及び日本語指導加配校での指導の平準化を図るよい機会となった。・ 日本語指導のカリキュラムを通常の学級にも周知し、通常の学級においても日本語指導を意識した授業が実施されるよう研修会等で理解啓発を図る。
--------------------	---

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。